

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 17 年 12 月 22 日 (2005.12.22)

【公表番号】特表 2004-524434 (P2004-524434A)

【公表日】平成 16 年 8 月 12 日 (2004.8.12)

【年通号数】公開・登録公報 2004-031

【出願番号】特願 2002-585530 (P2002-585530)

【国際特許分類第 7 版】

C 08 G 18/40

【F I】

C 08 G 18/40

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 7 月 2 日 (2004.7.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

数平均分子量が 500 ～ 15000 の範囲であってかつ数平均分子量と重量平均分子量とが異なっている物質混合物 (I) であって、

A) UV 吸収剤 (II) または UV 吸収剤 (II) とプラスチック用安定化剤 (III) との混合物 (但し、前記 UV 吸収剤 (II) または安定化剤 (III) の少なくとも一部は、ジオールと反応可能な基を少なくとも 2 個有している。) とジオール (IV) との反応、

または、

B) UV 吸収剤 (II) または UV 吸収剤 (II) とプラスチック用安定化剤 (III) との混合物とポリオール (V) との反応、

(但し、反応 A) または反応 B) の反応条件は、物質混合物 (I) における脂肪族 OH 基の水酸基価が 20 未満になるように選択される。)、

により製造することができることを特徴とする物質混合物。

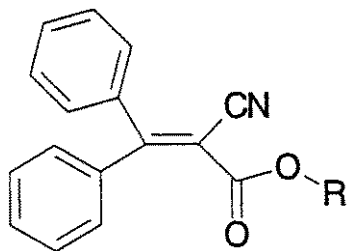
【請求項 2】

反応 A) および反応 B) によって製造することができることを特徴とする、請求項 1 に記載の物質混合物。

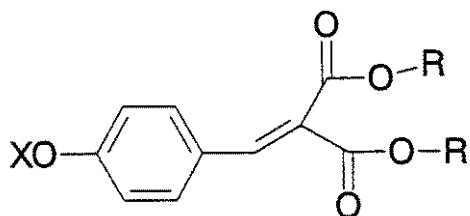
【請求項 3】

式 II. 1、II. 2 または II. 3、

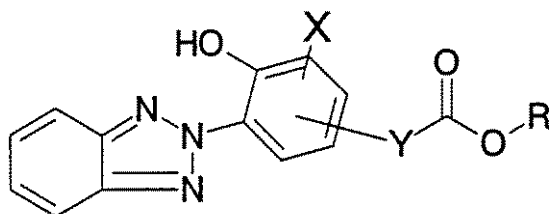
【化 1】



II.1



II.2



II.3

{ 式中、X は、水素原子、直鎖状または分枝状の $C_1 - C_{20}$ - アルキル基、1 ~ 3 個の $C_1 - C_{20}$ - アルキル基またはフェニルアルキル基により置換されていてもよい $C_5 - C_{12}$ - シクロアルキル基、またはヒンダードアミンを意味し、

R は、水素原子、直鎖状または分枝状の $C_1 - C_{10}$ - アルキル基、 $C_1 - C_{10}$ - アルコキシアルキル基、または $C_1 - C_{10}$ - アルケニル基を意味し、

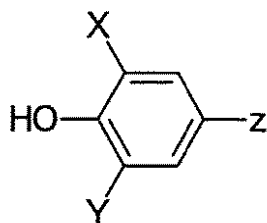
Y は、共有結合、または直鎖状または分枝状の $C_1 - C_{12}$ - アルキレン基を意味する。 }、

で表される UV 吸収剤 (II)、またはこれらの混合物が使用されることを特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の物質混合物。

【請求項 4】

使用される安定化剤 (III) が、式 III.1、

【化 2】

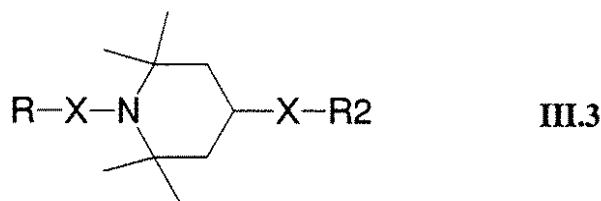


III.1

{ 式中、X および Y は互いに関係なく、それぞれ水素、または 1 ~ 12 個の炭素原子を有する直鎖状、分枝状、または環状アルキル基を意味し、

Z は、 $C_1 - C_{12}$ - アルキレン基を介してフェノール基と結合している少なくとも 1 個のカルボキシ基を意味する。 }、

で表されるヒンダードフェノール、またはⅠⅠⅠ．３、
【化３】



{ 式中、X は共有結合、窒素原子、酸素原子、アミド基、またはエステル基を意味し、
R および R 2 は互いに関係なく、それぞれ水素原子、または 1 ～ 1 2 個の炭素原子を有するアルキル基を意味し、但し、少なくとも一方の基は、ジオール（ⅠⅤ）またはポリオール（Ⅴ）との結合が可能な官能基を少なくとも 1 個有している。}、
で表されるヒンダードアミンを含むことを特徴とする、請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の物質混合物。

【請求項 5】

UV 吸収剤（ⅠⅠ）または UV 吸収剤（ⅠⅠ）とプラスチック用安定化剤（ⅠⅠⅠ）との混合物（但し、前記 UV 吸収剤（ⅠⅠ）または安定化剤（ⅠⅠⅠ）の少なくとも一部は、ジオールと反応可能な基を少なくとも 2 個有している。）とジオール（ⅠⅤ）とを反応させる工程を含む、請求項 1 に記載の物質混合物の製造方法。

【請求項 6】

UV 吸収剤（ⅠⅠ）または UV 吸収剤（ⅠⅠ）とプラスチック用安定化剤（ⅠⅠⅠ）との混合物をポリオール（Ⅴ）と反応させることを特徴とする、請求項 1 に記載の物質混合物の製造方法。

【請求項 7】

プラスチックの UV 安定化のために請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の物質混合物を使用する方法。

【請求項 8】

ポリイソシアナートをイソシアナートと反応可能な化合物と反応させてポリウレタンを製造する方法であって、

UV 安定化のために請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の物質混合物を使用することを含む方法。

【請求項 9】

請求項 8 に記載の方法によって製造することができるポリウレタン。